

理学部の皆様への報告と謝辞

和田 昭 允



東京大学理学部のようなすぐれた頭脳集団の組織の発展が、一步一步の精密かつ建設的努力の積み上げであり、その連続性を重視しなければならないという観点から、私が執行部におりました2年間の理学部の状況についてごく簡単に報告致します。今後の御参考となれば幸いです。

まず、理学部における教育と研究のより一層の活性化については、各教室・施設から出された予算要求の実現について努力しました。しかし、そのいくつかは実現したものの、多くが積み残され御期待に沿えなかったことを残念に思う次第です。実現されたものを見ると、目標が明確なもの、業績報告がきめ細かくされているもの、何らかの犠牲を払うなどの内部努力がされているもの、世の中の期待といった上げ潮に乗っているものなど、予算決定にたずさわる人達の感覚の波長に合ったものが多いようです。これはある意味では科学の進む方向が科学者以外の人達に決められてしまうことになりませんが、予算案を出される際には、当方の筋をまげない範囲で相手の波長に出来るだけ合わせる努力をされることも必要のようです。

内部努力として行われた、理学部広報の研究ニュース欄の新設、理学部における発表論文リスト

の作成、国際理学ネットワークの開設、理学研究懇談会の発足、国際交流室の設置、数学寄付講座、および提携教官制度（さしあたり天文学専攻）の発足等は、今後の理学部の発展の基礎となるものと信じます。

理学院計画については、未だ道中ですが、他部局との合意も順調に得られつつあり、内外の諸情勢が追い風として吹き始めたこともあって、近い将来必ず実現するものと期待しております。同様に、理学部の長年の悲願である建物の集中化も、本部施設部の積極的な取り組みが見られるようになり、具体化への一步をふみ出したといえる状況となりました。また、理学部内の問題ではありませんが、財団法人理学振興会（仮称）の設立が理学部関係者によって進められており、実現の暁には理学部の研究・教育に対する外野席応援団の役割を果たすことと思います。

理学部の組織面の改革は、前記の理学院が中・長期計画としてあるわけですが、短期の問題として、地球物理教室・施設の地球惑星科学科への改組、広域理学専攻の新設、大学院設置基準の改正への対応、技官組織化、技官研修制度の確立、東京大学独自のPDF制度の提案、学生定員の恒常的増員、さらに柏キャンパス獲得等を審議・検討し、さらに一般的に広く、大学における理学研究の重要性を世に訴えるべく努力しました。これらはまだ進行形のものですが、実現の折には理学部の発展に大きく寄与すると信じております。また、全学的な問題を自由に討論する場の必要性を感じましたので理系の諸学部を横断する連絡懇談会を工学部長と協同して発足させることになりました。

一方、理学部内の委員会と委員の数を減らすことを公約しながら実行出来なかったこと、さらに、

小生が管理業務に不慣れなことによる種々の不手
際によって御迷惑をおかけしたことに関してお詫
び致します。

最後に、理学部を構成する全ての皆様の思いや

りのある御協力に対して厚く御礼申し上げるとと
もに、今後の理学部の発展と皆様の御多幸をお祈
り致します。